

大型連休中 大勢の人で賑わう

4月28日から5月6日までのゴールデンウィーク期間中、町内の施設が大勢の人で賑わいました。道の駅「上ノ国もんじゅ」では、3日から5日に予定していた「よつてけ市」が荒天のため中止となったものの、リニューアルオープンした効果に加え、桜の見頃を迎えたことから、沿道を通る多くの花見客が立ち寄り、特産品を買い求めたり、食事をしたりと約2万人の方々が訪れました。

また、町内の温泉施設にも多くの方が訪れ、昨年12月に建て替えられた花沢温泉には、前年比1.4倍の2552人が訪れたほか、「勝山館跡ガイドンス施設」には、4月から実施されている「続日本100名城スタンプラリー」の効果もあり、前年比2.5倍となる422人が訪れました。今後は、これらの施設を基点に町内各地が賑わうことを期待しています。



高齢者宅を訪問し 火災警報器の交換を呼び掛ける

4月21日、上ノ国町婦人防火クラブ（品田俊子会長）の会員14名が、全道一斉の「春の火災予防運動」にあわせ、扇石・汐吹地区の70歳以上の高齢者宅約80軒を訪問しました。

この活動は、住宅用火災警報器の交換時期を迎える住宅が多いことから高齢者宅の見回りを兼ねて行ったもので、訪問先では、会員が健康状態を聞き取りしたほか、住宅用火災警報器の点検・交換方法などを資料を使いながら説明しました。

品田会長は、「安心して住み続けてもらいたくて実施しました。火災のない街づくりに協力したい」と話しており、今後この活動を継続する予定とのことです。

消防庁の統計によると平成29年における建物火災の犠牲者の7割が65歳以上の高齢者となっている現状があることから、火の取り扱いには十分に気をつけましょう。



上ノ国昔踊りを 未来へ残すために



5月13日、上ノ国昔踊り保存会設立総会が勝山交流館で行われ、15名が参加しました。

上ノ国昔踊りは、戦国時代の「戦勝祝い」として踊られたことが始まりと言われており、以前も保存会が組織されていましたが、代表者が不在になるなどしたため活動が行われていませんでした。

その状態を知った有志が、踊りを継承するため経験者に声を掛け、改めて保存会を設立したもので、会長に石田恵子さん（字上ノ国）を選出したほか、22名で活動していくことを確認しました。

会長の石田さんは「皆さんに知ってもらい、参加してもらいたい」と話しており、6月10日にジョイよぐらで行われる交流発表会を披露する予定です。

どさんこプラザ札幌店で 上ノ国の特産品が中心に販売される

5月16日から22日までの1週間、JR札幌駅西通り北口の北海道どさんこプラザ札幌店で「春の檜山フェア」が行われ、上ノ国の特産品の販売が行われました。

この取り組みは、檜山振興局と北海道どさんこプラザ札幌店が連携して年2回、檜山の物産販売を実施しているもので、今回は道の駅「上ノ国もんじゅ」の「和菓子」や「こうれん」、「越冬なばな」などの特産品を中心に販売されました。また、16、17日には、カミゴンも店頭立ち、物産販売に「役買って」いたほか、19日から22日の間、食彩工房さんが「ほっけの切り込み」などの対面販売を実施しました。買い求めた人からの反応もよく、今後の特産品の販路拡大が期待されます。

